

○*Lespedeza bicolor* Turcz. var. *velutina* Nakai と *L. kiusiana* Nakai の基準標本について (秋山 忍・大場秀章) Shinobu AKIYAMA & Hideaki OHBA: Typification of *Lespedeza bicolor* Turcz. var. *velutina* Nakai and *L. kiusiana* Nakai (Leguminosae)

Lespedeza kiusiana Nakai (ビッチュウヤマハギ) は、1927年に中井猛之進により“萩類ノ研究”の中に新種として記載された。1923年に中井自身が記載した *L. bicolor* Turcz. var. *velutina* Nakai を synonym にあげ、この名が種のランクとしては later homonym であることを、“Nomen mutandum est ne confundatur cum *Lespedeza velutina* Dunn. (組み替えされるべき名は *L. velutina* Dunn と混乱させられる) ことになる”と記すことによって明確に示している。従って、*L. kiusiana* は *L. bicolor* var. *velutina* の変種名 *velutina* が種名としては使えないためにつけられた新学名に過ぎないと考えられ、現在の国際植物命名規約第7条10項(1983年)により、*L. bicolor* var. *velutina* のタイプ標本が同時に *L. kiusiana* のタイプ標本となるはずである。

L. bicolor var. *velutina* を記載した時、中井は3点の標本を引用したが、タイプの指定は行なわなかった。ところが、1927年の *L. kiusiana* の記載にあたっては、J. Nikai no. 1072 をタイプ (typus) とした。この標本が *L. bicolor* var. *velutina* の記載に引用された3点の標本のうちの1点ならば、現行の規約により、この時点において *L. bicolor* var. *velutina* の lectotype の選定がなされたとみなされる。しかし、*L. bicolor* var. *velutina* の記載中に J. Nikai (S. Nikai ではないことに注意) no. 1072 は引用されていないのである。ところが、中井は、*L. kiusiana* を記載した時に写真標本を1葉掲載し、“備中国産 *Lespedeza kiusiana* NAKAI 東京帝國大學理學部植物學教室所蔵ノ標本ニシテ余ガ囊ニ *Lespedeza bicolor* var. *velutina* ト命ゼシモノヽ基準標本ナリ。備中国産ナリ。”と記して、その標本が *L. bicolor* var. *velutina* の基準標本であるように説明している。だが、この説明文中には、標本の採集者及び番号が引用されていないし、写真にも写っていない。この標本は、後述するように J. Nikai no. 1072 ではなく、*L. bicolor* var. *velutina* の記載に引用された標本中の1点、J. Nikai no. 1143である。そこで、*L. kiusiana* と *L. bicolor* var. *velutina* のタイプについて問題を残すこととなった。

1) *L. bicolor* var. *velutina* の syntypes について

原記載に引用された3点の標本というのは、S. Nikai no. 1072, J. Nikai no. 1142, J. Nikai no. 1143 である。東京大学総合研究資料館植物部門には、S. Nikai no. 1072 (備中国吉備郡真金村字板倉 二階シゲコ採集 No. 1072), J. Nikai no. 1142 (備中国吉備郡高松村岡山県立農学校培養 二階重樓採集 No. 1142), J. Nikai no. 1143 (備中国吉備郡岡山県立農学校培養 二階重樓採集 No. 1143) が収蔵されていて、1922年に中井により *L. bicolor* Turcz. var. *velutina* Nakai と同定されている。これら3

点の他には、中井により *L. bicolor* var. *velutina* と同定された標本はみられない。従って、これらの標本が *L. bicolor* var. *velutina* の syntypes であるとみることに問題は無いといえる。また、S. Nikai no. 1072 に関しては、重複標本が国立科学博物館に収蔵されている。

3 点の syntypes のうち J. Nikai no. 1143 の標本は、1927年に掲載された *L. bicolor* Turcz. var. *velutina* Nakai の基準標本の写真と一致し、しかも、“Typus” の判が押されている。掲載された写真には“Typus”の判もラベルも写っていないが、この標本に押された“Typus”の判は、中井が1927年に記載した他の種(*L. nipponica* Nakai, *L. kawachiana* Nakai, *L. nikkoensis* Nakai など)のタイプ標本に押されている判(これらの標本写真も1927年に掲載されており、しかも“Typus”の判も写っている)と同じものであり、その他の状況もあわせて、1927年あるいはそれ以前に中井により押されたか、少なくとも中井自身は押印に対して異論はなかったものとみられる。従って、中井は、この押印時に J. Nikai no. 1143 を *L. bicolor* var. *velutina* の lectotype と考えた、と思われる。これは、上述の写真の説明文とも一致する。

2) *L. kiusiana* のタイプ標本とされた J. Nikai no. 1072 の標本、及びその他の引用標本について

1927年に *L. kiusiana* のタイプ標本として引用された標本 (J. Nikai no. 1072) は、東京帝国大学に収蔵されるとなっているが、現在、東京大学総合研究資料館植物部門の収蔵標本中に見いだすことができない。国立科学博物館、牧野標本館、京都大学植物学教室の収蔵標本中にも J. Nikai no. 1072 という標本を見いだすことはできない。

さて、J. Nikai no. 1072 の標本が現在は見られないことについて、次の2つの可能性が考えられる。(a) J. Nikai no. 1072 は、中井が *L. kiusiana* のタイプ標本と指定した後、何らかの理由で行方不明になった。(b) J. Nikai no. 1072 という標本は元々存在しなかった。

(a) の場合、なぜ中井は J. Nikai no. 1072 を *L. kiusiana* のタイプ標本に指定したかという問題がある。中井は、*L. bicolor* var. *velutina* を記載した時には、J. Nikai no. 1072 を引用していない。*L. bicolor* var. *velutina* の syntypes 3 点のうち、J. Nikai no. 1142 は、*L. kiusiana* の記載中に引用され、J. Nikai no. 1143 は、1) で述べたように写真として掲載されているが、S. Nikai no. 1072 だけが *L. kiusiana* の記載にまったく引用されなかった。それでは *L. kiusiana* は単なる新名ではなく、*L. bicolor* var. *velutina* の一部 (S. Nikai no. 1072 によって代表される) を除く新種として記載されたのだろうか。しかし、この見方は、中井自身による言及がまったくないこと、さらに“萩類ノ研究”中で、その標本 (S. Nikai no. 1072) がどこにも引用されていないことなどから、非常に考えにくいものである。

(b) の場合、J. Nikai no. 1072 という実在しない標本を中井が引用したことになる。

この問題は、S. Nikai no. 1072 と引用しなければならないところ、何らかの理由で（例えば単なる誤植とか、引用する際に“S”と“J”を書き間違えたとか）J. Nikai no. 1072としてしまったと考えれば問題は簡単に解決される。S. Nikai no. 1072 が、中井により *L. kiusiana* と同定されているとか、“Typus”の判が押されていれば、一層有力な根拠となるが、そのようなことはない。

以上の2つの可能性を検討すると、S. Nikai no. 1072 と J. Nikai no. 1072 は、採集者の姓、番号、産地までも同一であり、しかも、J. Nikai no. 1072 は見いだされていないので、S. Nikai no. 1072 と J. Nikai no. 1072 の2点の標本が存在したとは考えにくい。従って、J. Nikai no. 1072 は S. Nikai no. 1072 の誤りであると結論してよいのではなからうか。

さて、規約上の問題を離れて、中井が“新種”として記載した *L. kiusiana* と、basionym とされた *L. bicolor* var. *velutina* が、果たして本当に同一の taxon に属するか否かという点が気掛かりである。即ち、*L. kiusiana* は単に *L. bicolor* var. *velutina* を種のランクに変更しただけであるのか、それとも、その taxon の circumscription 自体の変更を含んでいるかどうかである。しかし、記載の点からみると、*L. kiusiana* のそれは、*L. bicolor* var. *velutina* の3行ほどの短い記載を詳しくしただけのものとみられる。また、*L. kiusiana* の記載には、*L. bicolor* var. *velutina* の記載で引用された3点の標本を引用している。*L. kiusiana* の記載にあたって新たに引用された九州産の2点の標本も *L. bicolor* var. *velutina* の標本と同一の種に属するとみられる（朝鮮産の2点については、若干の問題があるが、タイプの問題には直接関係はないので別の機会に発表するつもりである）。従って、内容からみても *L. kiusiana* は、*L. bicolor* var. *velutina* の新名と考えることに問題はないといえる¹⁾。

そこで、*L. bicolor* var. *velutina* と *L. kiusiana* のタイプ標本の問題についてのこれまでの議論を整理してみると、次のような2つの考え方ができると思う。

(1) J. Nikai no. 1143 は、中井により“萩類ノ研究”中で、*L. bicolor* var. *velutina* の lectotype と指定されたことが発表された。国際植物命名規約第7条10項により、*L. bicolor* var. *velutina* のタイプ標本が、*L. kiusiana* (*L. bicolor* var. *velutina* を種ランクに変更したときの新名提唱とする)のタイプ標本となるので、中井が *L. kiusiana* のタイプ標本に指定した J. Nikai no. 1072 はタイプとは認められず、J.

¹⁾ 中井は *L. kiusiana* を新種 (sp. nov.) として発表しているものの、先にもふれたように、これは今日の新名提唱と解される。当時の慣習として新名提唱に際しても sp. nov. とされる場合が多く、*Patrinia palmata* var. *gibbosa* Makino に対する *P. gibbiferrum* Nakai (sp. nov.) [先行名 *P. gibbosa* Maxim. があるため、Makino の名は種のランクでは使用できない。Cf. Bot. Mag. Tokyo 33: 214 (1919)] のように中井にもその例がかなりみられる。

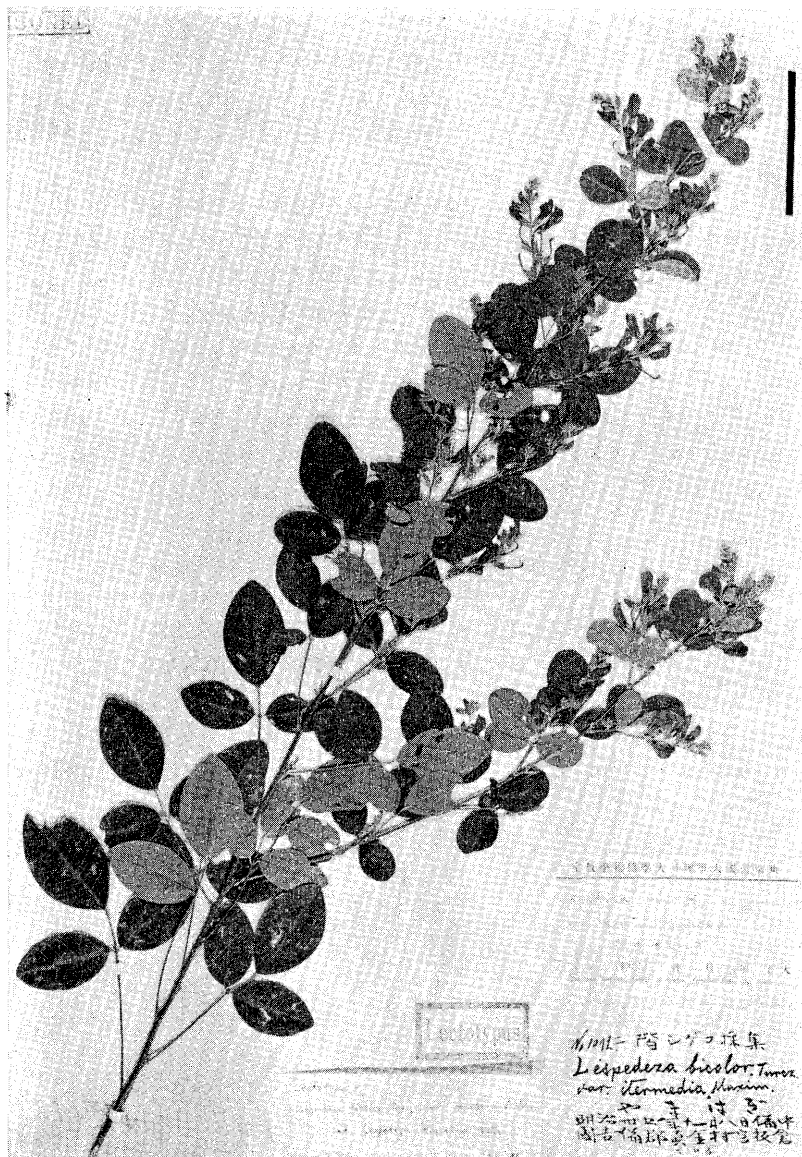


Fig. 1. Lectotype of *Lespedeza bicolor* Turcz. var. *velutina* Nakai and *L. kiusiana* Nakai (S. Nikai no. 1072, TI). Bar indicates 5 cm.

Nikai no. 1143 が *L. kiusiana* のタイプでもある。

(2) 中井が *L. kiusiana* のタイプを S. Nikai no. 1072 (ただし J. Nikai no. 1072 と誤記した) に指定した時に、同時に *L. bicolor* var. *velutina* の lectotype の指定の発表がなされた。従って、中井が J. Nikai no. 1143 の標本写真に *L. bicolor* var. *velutina* の lectotype としたと記したのは unnecessary 指示であり、S. Nikai no. 1072 が *L. bicolor* var. *velutina* の lectotype でもある。

上記のどちらの説も採り得るが、J. Nikai no. 1143 と J. Nikai no. 1142 は岡山県立農学校で培養(栽培)されていた株から採られたものであるのに対して、S. Nikai no. 1072 は野生株から採られている。中井は1927年の“萩類ノ研究”中では、栽培のものと野生のものとは別種としてしているとみられる。*L. kiusiana* に関しても、*L. bicolor* var. *velutina* のタイプにしたと書いた栽培のものではなく、敢て野生のものをタイプに指定したのではないかと想像される¹⁾。従って、野生の株から採られた S. Nikai no. 1072 を、*L. bicolor* var. *velutina* 及び *L. kiusiana* の lectotype と認めてはどうだろうか。そこで、J. Nikai no. 1072 を S. Nikai no. 1072 に訂正し、それを *L. bicolor* var. *velutina* 及び *L. kiusiana* の lectotype と認める提案を行なうことにしたい。

この提案の発表に際し、多くのご教示をいただいた原寛先生にお礼申し上げます。

When Nakai published *Lespedeza bicolor* Turcz. var. *velutina* Nakai in 1923, he cited three specimens, i. e., S. (Shigeko) Nikai no. 1072, J. (Jyûrô) Nikai nos. 1142 and 1143, but did not choose the type among them. These three specimens are, therefore, regarded as the syntypes of his *velutina*. Later, Nakai (1927) published *L. kiusiana* as ‘new species’ but cited his early name in the synonymy. He wrote: “Nomen mutandum est ne confundatur cum *Lespedeza velutina* Dunn”. That is, he noticed that his *velutina* was the later homonym of *L. velutina* Dunn (1901). So that *L. kiusiana* is undoubtedly regarded as a new name. At that time he, however, designated the type of *L. bicolor* var. *velutina* and also *L. kiusiana* respectively: Nakai wrote J (not S). Nikai no. 1072 as the type of *L. kiusiana* in its description while in the caption of the photograph

¹⁾ もっとも京大にある小泉源一が備中高松町農学校で採集した標本 (20 Sept. 1942) には、“本品ノ原品ハ二階重樓氏高松農学校在職中吉備郡真金村板倉ノ山地ヨリ採り来リテ学校ニ植栽シアルモノヲ氏ノ弟子ニシテ本校教諭ナル高田馬治氏ニヨリ殖ヘツガレ繁殖サレシモノナリ”との添え書きがある。この標本は、東大にある二階重樓 no. 1142 または 1143 (1903年採集) と同じ個体から採られたと思われる。この記述によれば、二階シゲコ no. 1072 と二階重樓 no. 1142 および 1143 は同じ個体(あるいは集団)から採取された可能性が高い。

of a specimen (p. 28) he mentioned that the specimen **had been selected** for the type of *L. bicolor* var. *velutina* by himself. This specimen, which is given no information of the collector and his number by him, is apparently J. Nikai no. 1143. On the other hand, there is no 'J'. Nikai no. 1072 in TI and other main herbaria in Japan. 'J'. Nikai no. 1072 is obviously regarded as a slip of 'S'. Nikai no. 1072, one of the syntypes of var. *velutina*.

Thus, Nakai did designate J. Nikai no. 1143 as the lectotype of *L. bicolor* var. *velutina* and S. Nikai no. 1072 as the (holo-)type of *L. kiusiana*. His treatment is unacceptable. Because *L. kiusiana* is the new name for *L. bicolor* var. *velutina*. Therefore, *L. kiusiana* must be typified by the type of the basionym, *L. bicolor* var. *velutina* Nakai (See Art. 7.10 in the present "International Code of Botanical Nomenclature" (1983)).

In his 1927's revision Nakai, in principle, distinguished the cultivated forms from wild species. *L. kiusiana* is regarded as wild species by him. Indeed S. Nikai no. 1072 was collected from a wild stock but J. Nikai no. 1143 was taken from a cultivated stock. In the circumstances, we desire to propose here that S. Nikai no. 1072 should be chosen as the lectotype of *L. bicolor* var. *velutina* Nakai and *L. kiusiana* Nakai.

Lespedeza kiusiana Nakai in Bull. Forest. Exp. Stat. Chosen (Korea) No. 6 (*Lespedeza* of Japan & Korea), 26 (1927).

L. bicolor Turcz. var. *velutina* Nakai in Bot. Mag. Tokyo 37: 74 (1923), non *L. velutina* Dunn (1901).

Lectotype: Japan. Honshu: Okayama Pref. (Prov. Bitchu), Kibi-gun, Makane mura, Itakura (Shigeko Nikai no. 1072 on 8th Sept. 1902, TI; Isolectotype in TNS).

Syntypes: Okayama Pref. (Prov. Bitchu), Kibi-gun, Takamatsu mura, Okayama Prefectural Agricultural School (cult.) (Jyûrô Nikai nos. 1142 & 1143, TI).

(東京大学 総合研究資料館植物部門)